

◆ J A 栃木中央会 先輩職員の紹介

1. 総合職・女性職員

(1) プロフィール

- ・入会年度 : 令和元年度
- ・出身大学・学部・学科 : 中央大学 文学部 人文社会学科 日本史学専攻
- ・所属部署 : 農業対策部



(2) 中央会を志望した理由

幼いころから農業は常に身近な存在でした。また大学では専攻以外に所属していた学部横断型のゼミにおいて、研修の一環としてイタリアの中山間地域でアグリツーリズム（農家民宿）を経験し、農業のあらゆる可能性を知ることができました。この経験から、農業が盛んな地元「栃木県」で「農業」の発展を支援する仕事がしたいと思い、中央会を志望しました。

(3) 担当している仕事

J A 栃木青年部連盟の事務局を担当しています。当該組織は県内10 J Aそれぞれにある J A 青（壮）年部を総括する県段階の組織で、年間を通して様々な事業（会議、学習会、発表大会、PR イベント等）を主催し、盟友（青壮年部員）が充実した活動を行えるようそのサポートを幅広く行っています。

また組合員の農業経営を会計面から管理するための「農業簿記」について、J A 担当者の知識向上を図るため、研修会を開催し説明を行っています。

(4) ある日のスケジュール

8:00 出勤、メールチェック、会議資料の予習等	13:00 青年部盟友の圃場で、
9:00 青年部関係会議資料作成	新聞連載企画に係るインタビュー
10:30 会議資料打合せ	16:00 事務所へ戻り、新聞連載企画の原稿作成
12:00 昼食	17:30 退勤

(5) 入会してから苦労したこと

自分が担当している複数の仕事を同時に進める必要があるため、常に進捗状況を管理することや臨機応変に優先順位を判断すること、余裕をもって計画的に進めることが特に苦労しました。

また、内部打合せや研修会等で使われている農業特有の用語についても知らないものばかりで、理解するまでに時間がかかりました。

(6) やりがいを感じたこと

自分が作成した資料や整理した段取りによって会議や事業を運営できたときにやりがいを感じます。自分宛てに電話やメールが来ることも増えてきているので、やりがいを感じるとともに、より一層責任をもって取り組まねばと気持ちも新たになります。

(7) 中央会の魅力（後輩へのアドバイス）

農業が盛んな栃木県全体の農業に関わり、支えることが出来ることは最大の魅力だと思います。また若手であっても、スケールの大きな仕事を任せただけのことです。もちろん最初は不安もありましたが、周りの上司や先輩方も手厚くサポートしてくださるので心強く、「とにかくまずは失敗を恐れずやってみよう」と思える環境があります。

アドバイスをするとすれば、学生のうちに学生の時にしかできない経験をたくさん積んでおくとういことです。どんなことでも必ず仕事をするうえで生きるはずで。

2. 総合職・男性職員

(1) プロフィール

- ・入会年度 : 令和元年度
- ・出身大学・学部・学科 : 玉川大学 農学部 生物資源学科
- ・所属部署 : 経営支援部



(2) 中央会を志望した理由

私の祖父母は農業を営んでおり、私にとって農業は幼いころから身近な存在だったため関心がありました。そのため、就職活動では「栃木で働きたい」という思いと「農業に関係した仕事をしたい」という思いの二つを軸として活動していました。その中で中央会を知り、栃木県の農業全体に広く携わることができると思い入会しました。

(3) 担当している仕事

私が所属している経営支援部では、決算や総代会、人事労務、内部統制、自己改革、役職員教育といった業務を行っています。

そのうち私が担当している業務は、利用（共同乾燥調製施設等）・加工・福祉事業等にかかる経営管理（分析）、大規模災害への対応に関する事項、共済事業の内部統制整備に関する事項等です。

組合員と直接会うような仕事ではありませんが、JAや連合会の職員と連携しつつ、JAの経営相談に応じられるよう日々努力しています。

(4) ある日のスケジュール

8:40 始業 1日のスケジュール確認	12:00 昼食、会場片付け
8:45 資料作成	13:00 資料作成
9:20 会議会場設営、受付	15:00 研修会資料の部内打合せ
10:00 会議	17:30 退勤

(5) 入会してから苦労したこと

JAから問合せを受けた時は、専門用語が多かったため、まず、話の内容を理解することが大変でした。そして、問合せの内容を精査して過去に類似の事例がないか調べたり、法律や内部の規程を調べたりして正確に回答しなければなりません。一つ一つ回答の根拠となるものを見つけ、回答をまとめることはとても時間がかかり、苦労しました。

(6) やりがいを感じたこと

JAから提供されたデータを集計して作成した資料が、会議や理事会で使われた際は、自分が担当したものが形として残るため、達成感がわきました。

また、JAへの出張は、最初の頃は先輩に同行する形でしたが、先輩の姿を見て学び、その後独り立ちをして一人で出張に行き仕事が出来た時には成長できたと感じられ、やりがいを感じました。

(7) 中央会の魅力（後輩へのアドバイス）

中央会の魅力は、様々な業務を通して、JAグループ栃木全体をまとめていくことができることだと思います。また、中央会の業務の内容は、部署毎に全く異なってくるため、様々な部署を経験することで自分の成長にもつながる魅力的な職場だと思います。

3. 電算職・女性職員

(1) プロフィール

- ・入会年度 : 平成30年度
- ・出身大学・学部・学科 : 東洋大学 文学部 日本文学文化学科
- ・所属部署 : システム管理部



(2) 中央会を志望した理由

地元である栃木県で就職したいと考えていました。また私自身食べることが好きで、栃木県の農業を守るJAという組織に興味を持ちました。JAグループのなかでも、中央会にはIT系業務の部署があると知り、システムを通してJAグループ全体のサポートをしたいと思い中央会を志望しました。

(3) 担当している仕事

私の所属しているシステム管理部の運行ラインでは、JAの業務で使用されているシステムの運用を行っています。システムが安定して稼働するよう、オペレーション(機器類の操作や監視)、処理スケジュール管理などが主な業務となります。監視は午前7時から午後8時までで行うため、シフトによる3交代制で勤務しています。また、内部の業務で使用するシステムの作成も行っています。

(4) ある日のスケジュール

<1 勤シフト(早番)の日>

- 6:35 出勤、機器類立ち上げ
- 7:00 自振DVD返却作業等
- 7:30 手順書の作成
- 8:40 引継ぎ
- 9:00 自振DVD受付作業
- 9:30 プログラムの修正
- 11:00 昼食
- 12:00 プログラムのテスト
- 14:30 メールバックの発送作業
- 14:45 プログラムのテスト
- 15:30 退勤

<3 勤シフト(遅番)の日>

- 12:30 出勤
- 13:00 引継ぎ
- 13:15 手順書の作成
- 14:30 メールバックの発送作業
- 14:45 手順書の作成
- 16:15 自振処理状況確認
- 16:30 プログラムの修正
- 17:00 夕食
- 18:00 プログラムのテスト
- 20:00 機器類電源オフ
- 20:10 退勤

(5) 入会してから苦労したこと

機器類の操作などの作業説明に専門的な事柄が多く、内容を理解することに苦労しました。大学では全く情報系の勉強をしていなかったため、基礎的な知識がありませんでした。

そのため、ちょっとした作業説明でも内容を理解するのが難しい状態だったので、分からない用語などがあったら自分で調べるか、その都度質問するようにしていました。

(6) やりがいを感じたこと

業務で使用するプログラムの作成を任された時や、さらに作成したプログラムが実際に使用された時は、自分の仕事の幅が広がったことにやりがいを感じました。

(7) 中央会の魅力(後輩へのアドバイス)

1年目から仕事を任せられることです。担当する仕事を通じた皆さんの技術や知識を学ぶことができ、成長し続けることのできる職場だと感じます。また先輩も親切で雰囲気の良い職場です。

4. 電算職・女性職員

(1) プロフィール

- ・入会年度：令和2年度
- ・出身大学・学部・学科：宇都宮大学 工学部 情報工学科
- ・所属部署：システム開発部



(2) 中央会を志望した理由

大学では情報工学を勉強しており、システムに関する職業に就きたいと考えていました。また、農業をIT面から支えることに魅力を感じ、JAの方が日々使用しているシステムの支援することができる中央会を志望しました。

(3) 担当している仕事

Compass-JAと呼ばれる会計ソフトに関する業務に携わっています。JAは信用・共済・購買・販売等のさまざまな事業を展開していますが、同ソフトは各事業における会計処理を連動させたJAに特化した会計ソフトであるため、JAの会計処理を円滑に進めることが可能となっています。

(4) ある日のスケジュール

- 8:30 出勤、メールチェック
- 8:40 始業時間
- 8:50 ライン打合せ
- 10:30 Compass-JA マスタ管理
- 12:00 昼食
- 13:00 業務に関わる資料の整理
- 17:00 終業時間

(5) 入会してから苦労したこと

簿記に関わるのが一切無かったため、一から勉強を始めました。最初は右往左往していましたが、先輩や周囲の方々に教えていただきながら簿記の基本的な知識を身に付けることができました。また、電話対応の場面で相手の名前や所属を聞き取れないことがあり、何度か聞き直すことがありました。

(6) やりがいを感じたこと

電算センターは県域システムを再構築するプロジェクトに取り組んでいます。その一環として、システム開発部が利用している開発環境の整備があり、そのメンバーとして環境整備に関する情報の収集やプログラミングを行う機会がありました。わからないことや間違えてしまうことも多々ありましたが、一通り作業が終わった後は達成感を感じました。

(7) 中央会の魅力（後輩へのアドバイス）

研修が充実しているため、JAに関する知識や職員として知っておくべき事項を着実に習得することができます。また、電算職では農業の知識とシステムに関する知識を掛け合わせて業務を遂行するため、多面的な視点から物事を見る力がつきます。最初はミスや分からないことも数多くありますが、焦らずじっくりと業務に慣れていければと思います。